

平成26年度 地域力向上事業 市民提案による住みよい地域づくり助成事業 事業評価一覧

件数	総事業費	市執行額
11件	7,717,681	2,834,000

単位：円

事業名	提案者・事業実施者	事業内容	事業効果	事業実施状況	総事業費(補助金額)	事後評価	
1	オレンジコンサートin三ヶ日	オレンジコンサートin三ヶ日実行委員会	合唱5~6団体と吹奏楽1~2団体による「オレンジコンサートin三ヶ日」を開催する。 運営スタッフを区民から公募し、事前研修することで、コンサート運営のノウハウを習得させる。	1 地域の音楽団体の活動や音響効果の高い施設(三ヶ日文化ホール)の告知ができる。 2 質の高い演奏や歌唱指導を受ける貴重な機会が得られる。 3 今後の運営スタッフの育成がなされる。	・オレンジコンサートin三ヶ日の開催 実施期間：平成26年4月1日~7月31日 参加団体：10団体 出演部門：4部門 来場者数：250人 浜松市北区内を中心とした参加団体による、合唱、吹奏楽、三味線、独唱の幅広い音楽の提供、北区内を中心としたPR活動やインターネット環境を利用した幅広い地域からの来場者確保を行った。 三ヶ日町を中心とした浜松市民の方が多く訪れ、アンケート結果も「大変満足」「満足」の割合が約85%と好評であった。 運営スタッフについては、効率よい事業運営を図るため、舞台関係者等からの指導や講習を受け、今後、北区内等で開催される音楽を中心としたイベント等の積極的参加の意識付けとなった。	600,000 (300,000)	北区と近隣地域から参加した幅広いジャンルの団体が、質の高い歌唱指導を受けたことは、地域の音楽文化の発展に寄与したものと認められる。また、公募による運営スタッフが音響・照明の専門家から直接指導を受ける等、貴重な機会を得たことも有効であった。 しかし、来場者は三ヶ日地域や60歳代以上の割合が高いため、今後は、育成した運営スタッフとの連携を高め、幅広い地域や年代の出演や集客のための仕掛けや工夫が求められる。
2	ぶらっと鎮玉探訪	ほたるの会	1 ホタル鑑賞の夕べの実施(環境教育を兼ねたホタル観賞会) 2 秋の渋川 ぶらっとウォークの実施(渋川地区の名所巡りと、閉鎖商店街の一日開店)	1 地域の魅力を発信することによる交流人口の増加や定住化と、地域の方と企画運営することによる新たな地域内交流の契機となる。 2 地域住民が地域の魅力やかつての賑わいを再認識でき、地域愛の醸成や流出人口の抑制につながる。	1 ほたる観賞の夕べ 平成26年6月7日開催、参加者約300人 的場四方浄公民館において露店を出し、地域内外の人が集う場所を提供した。また、ホタルの専門家からレクチャーを受け、鎮玉が自然豊かな地域であることを再確認する環境教育の場を提供した。その後、的場川沿いのホタル観賞ツアーを実施した。 2 秋の渋川 ぶらっとウォーク 平成26年10月12日開催、参加者約160人 3kmコースと7kmコースを設け、地域の名所を巡るウォークラリーを実施した。本部である親水公園では、音楽やダンスなどのプログラムを実施するとともに、各種の出店も展開した。 予定した商店街の一日オープンについては、店主の皆さんの高齢化のため、諸事情を勘案して見合わせた。参加可能な店主の方には、商品を製造していただき、親水公園の広場にて委託販売という形で実施した。	1,018,006 (406,000)	本事業は、地域内のみならず区外の市民にも広く周知されており、特に「ほたる鑑賞の夕べ」は定着の度合いが高いと認められ、地域の魅力の発信と地域間交流の活性化に寄与したものと認められる。また、地域住民や地元企業との連携による事業展開がなされたことで、住民の郷土への愛着心の醸成が図られたものと評価できる。 ただし、事業費に対する人件費の割合が高いため、今後は、事業経費の見直しを行う等、自立できる事業として継続発展するための改善に期待する。
3	三方原防風林の活用と地域づくり	浜松北地域まちづくり協議会	1 ノルディックウォークの企画・実施(2回、各30名) 2 浜松北地域の各小学校における椎茸栽培体験 3 テクノロード沿いの自治会や浜松啓陽高校との連携によるクリーン作戦の実施	1 ノルディックウォークの適地としての浜松北地域の更なる告知強化が可能となる。 2 椎茸栽培やテクノロードのクリーン作戦の実施による、地域の自治会や学校との連携強化が図られる。	1 ノルディックウォークの企画・実施(2回、参加延べ48名) ・テクノロード会場 5月31日開催、参加24名 ・都田総合公園会場 11月6日開催、参加24名 2 浜松北地域の各小学校における椎茸栽培体験 ・参加4小学校(初生、豊岡、都田、都田南) ・6月上旬 原木の本伏せ作業、1月下旬~2月上旬 椎茸菌打ち作業 3 テクノロード沿いの自治会や浜松啓陽高校との連携によるクリーン作戦の実施 ・5月31日実施、参加560名	521,923 (130,000)	ノルディックウォーク団体や地域の高校・小学校・自治会との連携により、平成25年度に行った事業を更に発展させたことで、今後予想される地域コミュニティの変化に対応するための、地域と関係団体との新たな連携気運の醸成に寄与したものと評価できる。また、取り組み内容にも区の資源を活用した地域ならではの発想と工夫が認められた。 今後は、地域と団体の連携の強化や新たな地域資源の活用を努める事業継続を期待する。
4	地域観光に活かすウォーキングコースの設定	浜松北地域まちづくり協議会	常葉大学との協働により、対象者別(小学生、親子・家族、中・高年)のウォーキングコースを設定し、マップを作成する。 各コースは地域の果物狩り・花摘み、歴史、花を素材としたものとする。	1 地域住民が、地域の良さを再認識でき、地域のおもてなしの機運が高められる。 2 地域の特産品が発信でき、新規客の誘引や地域づくりの機運が高められる。 3 ウォーキングコースは、地域要望がある「婚活事業」への活用が可能となる。	1 ウォーキングコースの設定 ・浜松北地域まちづくり協議会理事による、図上でのウォーキングコース案の作成 ・常葉大学生との連携による、コース案の精査並びに試歩の実施 ・三方地区4コース、都田・新都田地区5コースを作成し、マップを作成した。 2 設定したコースでのウォーキングイベントの試行 ・常葉大学生や青パト巡視員との連携による、下見ウォークの実施 ・ウォーキングイベント「北区Deウォーキングgoo!!!」の開催。2月21日実施、参加38名 3 ウォーキングコース及びウォーキングイベントの告知 ・FMハローと提携し、番組内でウォーキングコース及びウォーキングイベントを告知した。	389,352 (194,000)	地域の大学や青パト巡視員等との連携により、これまで比較的希薄であった浜松北地域の観光資源を掘り起し、住民自らの手でウォーキングコースを設定し、ウォーキングイベントの開催につなげたことは、地域の魅力の発信と、地域の更なる一体感の醸成に寄与したものと評価する。 ただし、ウォーキングイベントの募集人数は他事業と比較し少人数であることから、開催回数の増加等、事業効果を高める検討が必要である。 設定したコースは他の自主事業等にも活用されており、地域の魅力を発信するための事業の展開が期待できる。
5	少子高齢化社会に向けた地域活力向上事業Ⅱ	静岡県立浜松工業高等学校後援会	1 高齢者対象のインターネットとやメール講座 2 子ども対象の木工工作教室 3 一般対象の非常時の野営講座 等	1 高齢者の社会参加機会の提供 2 地域の子どものものづくり教育の支援や、夏休みの小中学生の課題への対応	1 実施日 平成26年7月26日 2 会場 県立浜松工業高校 校内 3 内容 (1) 高齢者向け「孫に聞くインターネット、メール講座」の開催 ・応募5名、参加5名 (2) 一般向け「災害時に役立つアウトドアのノウハウ講座」の開催 ・応募4名、参加2名 (3) 小学6年~中学生向け「ものづくり木工教室」の開催 ・応募3名、参加1名	186,157 (74,000)	参加者の評価は高く、地域の高校生が地域活動へ参加したり、地域と高校が連携したりする機会として貴重な事業であったと認められる。 ただし、各講座の参加者数は目標値の10~50%と低い達成率であったことから、事業の告知方法の検討や、高齢者や若年層に対する白秋の魅力度が高い講座の企画が求められる。 今後は、自立した運営を視野に入れ、より効果的な運営方法や地域の生涯学習講座との連携を模索等の改善により、事業継続を期待する。

事業名		提案者・事業実施者	事業内容	事業効果	事業実施状況	総事業費 (補助金額)	事後評価
6	渋川の資源発信事業	Reメイクわかぶし	1 渋川つつじの里ウォークの実施（「渋川つつじ」と掘り起こした地域資源の連携） 2 大いちょうウォークの実施（「大いちょう」と掘り起こした地域資源の連携）	1 前年に整備した散策コースや地域資源の更なる活用が可能となる。 2 渋川地区の来訪者の増加により、停滞する地域の活性化につながる。 3 地域の方に外部の方と交流する機会が提供でき、地域おこしの機運が高められる。	1 つつじの里でふれあいタイム 開催日：平成26年5月25日 参加者：約50人 渋川つつじ祭り期間中にウォーキングと渋川在住の講師による各種体験イベント（フラワーアレンジメント、和菓子づくり、お茶講座、またたストーブづくり）を開催。 2 いちょうウォークと新そばまつり 開催日：平成26年11月29日 参加者：約130人 渋川のシンボルツリーである大いちょうが色づき、渋川で栽培した蕎麦の収穫ができる時期にウォーキング、新そばを使ったそば打ちの体験イベントを開催。また大いちょうのアピールのため11月21日～30日の期間においてライトアップを実施した。	281,300 (112,000)	これまでの地域力向上事業の取り組みにより整備した散策コースや案内図・マップ等を活用し、ウォーキングや体験イベントを実施したことで、参加者の満足度も高く、渋川地域の魅力の発信に寄与したものと認められる。 ただし、ウォーキングの参加者が他の事業と比較しやや低調であったことから、今後は、より有効な事業の告知方法の検討により、より多くの市民に渋川地域の魅力を発信し、交流人口の増加による中山間地域の活性化につながる事業として定着することを期待する。
7	市民協働プロジェクト「みをつくし劇団」	みをつくし劇団	北区ならではの歴史文化を題材とした脚本を制作し、広く一般向けに公演する。 劇団員を公募し、年間を通じた稽古に取り組む。	1 北区の歴史文化を広く知らしめられる。 2 身近な演劇の鑑賞機会の提供。 3 稽古を通じた区民の交流や、区民が本格的な演技指導を受ける機会が提供できる。	劇団員の募集：団員数 14名（北区を中心に、子どもからお年寄りまで幅広い年代が参加。） 客 演：細江文化協会演劇部4名、油田さくら連5名 6月から2月まで、週1・2回の稽古を実施。 みをつくし劇団公演 公演日：平成26年2月22日（日） 2回公演 昼の部13:00～14:30、夜の部18:00～19:30 会 場：みをつくし文化センターホール 演 目：「風雲！井伊の牙」 当日スタッフ人員：35名 観客動員人数：650人（うち昼の部400人、うち夜の部250人）	1,313,000 (328,000)	演劇に携わる人材の育成と、地域の歴史を題材にしたオリジナル作品を手がけ公演してきた劇団の活動が、区民の関心を集め公演に多くの観客を動員していることは、地域に存する歴史文化に対する理解と魅力を再認識させるとともに、地域の文化芸術活動の発展に寄与したと認められる。 地域力向上事業としての取り組みが終了する今後においても、区民に身近な演劇の鑑賞機会を提供する場として、自立した活動が継続されることを期待する。
8	細江の凧文化継承事業	細江凧の会	徳川家康公没後400年記念のイベントとして、「細江凧あげまつり」を開催する。 （関ヶ原ミニ凧合戦、全国伝統凧の競演、凧づくり体験、凧あげ体験 等）	1 地域の凧文化を、区民に広く知らしめられる。 2 地域の子も達に、伝統的な遊びの体験の場が提供できる。 3 地域の観光や産品を広く紹介でき、地域の活性化につながる。	第11回細江凧あげまつりの開催 開催日時：平成26年11月23日（日） 9:00～15:00 開催会場：浜松市細江総合グラウンド芝生広場 参加者数：約200名（1都8県より凧愛好家40団体約150名が参加） 1 平成関ヶ原ミニ凧合戦（井伊、石田両軍各々15名によるミニ凧合戦） 2 子ども凧たこあがれ（親子での凧作りと凧あげ） 3 全国の凧の競演（愛好家の珍しい創作凧や伝統凧の披露、来場者も凧揚げ体験） 4 凧の女神とじゃんけんゲーム（勝てば記念凧、勝つまで挑戦） ※凧あげまつりを通じて、全国の凧愛好家や市民による交流が図られ、凧の歴史、文化、技術の継承する機会となった。	502,215 (199,000)	地域の凧文化に、県内外の愛好家や市民との交流が図られたことは、凧文化の認識と継承の場として有効であった。また、凧文化に携わる市民団体ならではの独自性が認められ、世代間・地域間交流にも寄与したものと認められる。 今後は、単なる凧あげを楽しむだけのイベントではなく、学術的な魅力も追及するなど一般市民の更なる市民参加を得るための企画をするなど、自立した事業として継続されることを期待する。
9	姫様道中のまちほそえ姫市	細江観光委員会	地域の特産品等の販売や、季節毎の伝統文化を再現する「ほそえ姫市」を年間13回開催する。	1 区民に地域の自然や文化に触れる機会を提供できる。 2 世代間交流の場が提供できる。 3 出店者同士の交流により、新商品の開発や、地域での内需拡大につながる。	都田川河川敷の立地条件と自然を生かした事業を展開し、地域の特産品の紹介の場、自然と伝統文化に触れる場を提供し、世代間交流及び地域の活性化に繋げた。 1 地域の特産品の紹介・販売の場を提供する「ほそえ姫市」の開催 4月20日～3月29日までの計13回開催、出店団体延べ119団体、来場者延べ2,260名 2 「ほそえ姫市」の開催と合わせ、季節に応じた地域の伝統文化の再現及び継承の場の提供 8月17日（夜市・花火）、9月21日（ハゼ釣り大会 参加者85組）、12月21日・3月15日（餅つき）、1月11日（どんど焼き）、2月15日（芋煮会） 3 「ほそえ姫市」の開催とあわせ、地域住民の活躍の場の提供 5月18日・3月29日（フォークソングライブ）、8月17日（フォークソングライブ・ジャズオーケストラ演奏） 4 地域の美化を目的とした清掃活動の実施 6月1日、8月17日、3月15日の計3回、参加数延べ13名 5 地域資源活用のためのPRの実施 広告チラシ2万部を作成し、北区内に折込・回覧・配布等を行い、出店者・来場者の増加につなげた。 ホームページをリニューアルし、メディア等に取り上げられる機会の増加につなげた。	737,173 (368,000)	姫様道中に由来する都田川河川敷の立地条件を活かした事業で、通年性の事業として先進性が認められる。また、地域の特産品の紹介・販売だけでなく、自然と伝統文化に触れる場の提供として様々なイベントを実施したことは、区民に対する伝統文化の継承・世代間交流の場としても有効であったと評価する。 今後は、特定の物販業者に対する事業とならないよう、公共性・公益性の確保に努めるとともに、今後の自主運営化を見据えたいうえで、より多くの市民が参加できる事業として継続されることを期待する。
10	北区・わくわく元気プロジェクト	常葉大学 社会貢献・ボランティアセンター (HUVOC)	過去の地域力向上事業による防犯・防災事業の成果を活用したタウンミーティングのほか、地域の農産物を販売する「都田朝市」、子供向けオープンキャンパスや健康フェア、清掃活動を兼ねた健康ウォーク等を行う。	1 安全安心なまちづくりの促進 2 地域の人材交流 2 子どもの学習意欲の向上 3 健康やスポーツ科学に関する知識向上 4 地産地消の促進と地域の活性化等	1 安全・安心なまちづくりを目指す「北区タウンミーティング」の実施 7月5日実施・参加60名、細江警察署との連携による防犯活動延べ56回・参加延べ261名 2 子供の健全育成を目指す「キッズオープンキャンパス」の実施 7月19日実施・来場1,260名（うち子供747名）・開講19講座 3 健康増進を目的とした「北区☆健康フェア」の実施 9月27日実施・健康相談来場延べ128名、健康講座参加55名 4 健康増進と地域PRを目的とした「健康ウォーク」の実施 10月25日開催・参加66名、参加者による清掃活動を行った。 5 学生の学びを地域に還元する「スポーツフェスタ」の実施 11月8日・9日・22日実施、参加延べ201名・4種目実施 6 農産物や加工品の地産地消を目指す「都田朝市」の実施 11月8～9日実施・出店16団体（24店舗）・来場約600名	1,440,589 (360,000)	大学が持つ知識・施設や学生たちの活動を、北区の財産として捉え活用した事業であり、先進性が高い。また、大学としても地域活動に対する若者の参画を期待するなか、学生が自ら立案し取組んだ本事業は、今後の地域振興策の実例となり得るものであり、本事業をきっかけとした地域連携につながる例も見受けられる。 地域力向上事業として3年継続したことから、今後は自主事業として継続し、大学が地域活動の拠点として定着し、新たな事業展開を期待する。

事業名	提案者・事業実施者	事業内容	事業効果	事業実施状況	総事業費 (補助金額)	事後評価
11 災害時の初期避難対策構築事業	三ヶ日まちづくり協議会	<p>各世帯が避難できたかどうかを知らしめるための「オレンジ手ぬぐい」を作成し、三ヶ日地区内に全世帯配布を行い、使用方法等を周知する。</p> <p>毎年1月に開催している避難訓練で、「オレンジ手ぬぐい」を活用した訓練を実施し、有効性や問題を検証し、地域や北区内で共有する。</p>	<p>1 自治会組織等の初期避難支援の円滑化</p> <p>2 災害弱者に対しての、地域の見守り体制の構築</p> <p>3 訓練を通じ、地域の繋がりが強まる</p> <p>4 他地域における初期避難活動の参考となる</p>	<p>・災害時の初期避難対策構築事業 実施期間：平成26年9月25日～平成27年2月28日</p> <p>浜松市北区三ヶ日地域内の災害時における初期避難活動のため、各世帯が避難できたかどうかを判断する手段として、「オレンジ手ぬぐい」を計5,000枚作成し、全世帯配布(自治会加入世帯)した。作成配布した「オレンジ手ぬぐい」は、三ヶ日地区自治会連合会協力の下、本年1月に開催した地域防災訓練の中で活用された。約78%の世帯で「オレンジ手ぬぐい」による安全確保の実証結果が得られた。</p> <p>周知については、作成した全戸配布チラシや有線放送を活用することにより、地域内住民への防災意識高揚を図った。また、防災コーディネーターを招いての防災研修会も開催した。</p> <p>なお、検証結果については、北区自治会連合会にも報告した。</p>	727,966 (363,000)	<p>近年、地域内交流が希薄になりつつあるなかで、地域内の住民がお互いに発災時の初期対応を支援するための体制を構築しようとする事業であり、その必要性は高い。また、北区自治会連合会を通じ北区内で共有された訓練の実証結果は、今後の北区内の初期避難支援の参考となり得るものである。</p> <p>今後は、本事業を地域の防災訓練等で継続的に行い、より実効的な仕組みとして住民への定着を図るとともに、事業の課題等を情報として提供し、他地域への普及を期待する。</p>